

経済学部、経営学部 インターンシップ報告会 社会を意識しキャリア形成



▲山崎機械製作所の山川工場長からコメントをいただく3年次生

「キャリア教育」推進のため、『インターンシップ(就業体験)』を導入する大学が増えている。文部科学省の調査では単位認定されるインターンシップを体験した学生は、02年度には約3万2000人。

本学では、経営学部で導入されて5年目、経済学部で3年目となる。今年度始めて実施されたネットワーク情報学部では11人が参加。このうち経営・経済学部では企業の方をお招きしての報告会が生田キャンパスで行われた。



▲新宿区立中央図書館での体験を発表

幅広い業種に

『企業研修』として実施されている経営学部(13社・24人履修)では11月29日、報告会が行われた。金融・製造・流通及び自治体など幅広い業種が特徴で、中には沖縄での研修に参加した学生も。

どの参加者も社会人と学生の意識の違いを体感し、自分に足りない点を自覚したことで、今後のキャンパスライフを向上させるための目的を見つけたようだ。発表後、研修委員の加藤茂夫教授は「理論と実践の共有を目的としたインターンシップは、適応能力の高い学生を作り出すことができる」と総括した。

意識変革の場

「学外特別研修」として実施されている経済学部(26社・40人履修)では、12月6日に発表会が行われた。チーフ原田博夫教授は「参加人数が昨年からはほぼ倍増したことで教員の負担も大きかったが、学生たちの達成度を見ると、3年目でようやくインターンシップが定着してきたと感じる」とあいさつ。

新宿区立中央図書館で体験した石川早苗さんと島津智子さん(いずれも経済2)は、児童室の業務で子どもたちへの読み聞かせも担当。利用者の視点で考え、必要としている情報は何かを常に考えて行動するようになったと発表し、NGO「アジア太平洋資料センター」で行った学生は、多様な価値観を持った方々が広い視野で物事を見る重要性を教えてくれた、とインターンシップが意識変革の場になったことを報告した。

感謝状を贈呈



経営学部では、受け入れ企業に感謝状の贈呈が発表会後に行われ、学長室で出牛学長=中央=から手渡された(左端は魚田勝臣学部長)。

ベンチャーインターンシップ発表会 —実践的ビジネス学ぶチャンス—

ベンチャー企業でインターンシップを行った学生7人の発表会が12月2日、生田キャンパスで行われた。



中国で行った馬場健史くん(経営3)は「ダラダラした毎日に危機感を持っていた。生活面では苦労したが、さまざまな経験から、『自己』『将来』を考えさせられた」と発表。この感動を広めたいと帰国後、ビジネスを研究するサークルを立ち上げた。高校時代から『起業』に興味があったという唯一の2年次生・馬瀬陽介くんは「目的意識を持って取り組んだことで、スキルアップすることが出来た。自分を変えたい、と思っている人はぜひチャレンジを」と熱く語った。

ベンチャー企業では長期間のインターンシップを受け入れており、少人数のため経営者の身近で実務を担当することで、より実践的なビジネスを学ぶことが出来る。

発表会を企画した池本正純学生部長は「信頼出来る紹介機関を上手に利用して、多くの学生がインターンシップを経験し、将来設計に役立ててほしい」と話している。

【ニュース専修1月号14面】